

眠れる森の美女

■ものがたり

王女様が生まれた日に、お城の料理番の夫婦にも、かわいい女の子が生まれました。今日は、王女様誕生のお祝いの日、三人の妖精たちが、王女様への贈りものを持って来ました。赤の妖精は?美しい声と、上手に歌える力。緑の妖精は?美しい姿で、ちょうちょうのように美しく踊れる力を。白の妖精は?



楽しい夢を見られる、眠りの贈り物です。その時、招待されていなかったことを恨みに思った黒の妖精がやって来て、「王女は死ぬ。18才になった時、糸車の針にさされて、死んでしまう」と、恐ろしい呪いを残して、消えてしまいました。お城の中は大騒ぎになりました。王様は、国中の糸車を燃やすように命令しました。一方、貧しい料理番の娘への贈り物は小皿一杯の料理と代々受け継がれた糸車だけでした。料理番の両親は、娘の為に王様の命令に背き何年も糸車を隠し持っていました。それから18年が過ぎ18才になった王女様が、黒の妖精によって、料理番の娘が唯一大切に、隠し持っていた糸車の針にさされて、百年間も眠らされてしまいます。白の妖精たちによって、その眠りの中で、王女様は、素晴らしい夢を見るのです。その夢の中では、いままでお城にいた人々が、動物に変身しています。料理番の娘は、白うさぎに変身して、糸車は、スマレの花になっています。遠い谷川から毎日水を運び、そのみすばらしいスマレの花を一生懸命育てています。王女様は、白うさぎとぶつかって、水を



こぼして、その花を踏み倒してしまいますが、謝ることさえしないのです。その様子を見ていた王子様が現れ、傍若無人に振る舞うわがままな王女様に対して、反省を促します。そこへ黒の妖精が王女様に死の呪いをかけて迫ってきますが、王子様と赤、緑、白の妖精たちによって黒の妖精は滅ぼされ、王女様は百年の夢から覚め、美しい心も目覚めるのです。「本当に美しいものは眼には見えない!心の眼で見なければ、それは見えない!」と言う王子様の心が、王女様に伝わり、めでたく二人は結ばれ、国中の人々も幸せになる物語です。



■かいせつ

シャルル・ペロー原作「眠れる森の美女」は、チャイコフスキー作曲の古典バレエやディズニーの絵本・映画でも製作されおなじみで、世界中の子どもたちに大変親しまれております。劇団東少は、この作品をオリジナルに脚色創作しています。王女様と料理番の娘は、同じ日に誕生します。王女様は、何不自由なく過保護に育てられますが、わがままで思いやりのない娘に育ってしまいます。一方料理番の娘は貧しくても、親から子どもへ、代々受け継がれた糸車を大切にしている心の優しい娘に育ちます。そして白の妖精たちによって王女様は、100年間の眠りの中で素晴らしい夢を見て、反省し、美しい心に目覚めるといった感動的な作品です。

劇団東少は、ミュージカル「眠れる森の美女」を通して、子どもたちに、人に対して思いやりの心や優しい心を持つことの大切さを伝えたいと思います。ご家族お揃いのご観劇を、心よりお待ちしております。

劇団東少紹介

劇団東少は、1949年創立以来公演活動を続けて半世紀を越えた歴史のある児童演劇の専門劇団です。公演地は、全国的であり、北は北海道から南は九州沖縄まで幅広く、公演日数も年間100日を超え20万人以上の動員をしています。作品は名作から創作まで数多く手がけ、特に子どものための名作ミュージカルは魅力的な舞台を創り、定評があります。1985年からスタートした東京日本橋の三越劇場での夏・冬の三越ファミリー劇場は、定期公演になり一般公演の少ない児童演劇界でホール専用のプランニングにより美しいステージを創り出しています。

劇団東少の子どものための名作ミュージカルは心のやさしさをメルヘンタッチで描き、現代に通じる愛を、芝居・歌・ダンスで構成し、涙と笑いを織り交ぜながら感動的な舞台を創り、大人にも子どもにも好評を博しております。

《劇団東少輝く受賞のかずかず》

- ◆厚生省児童福祉文化賞
- ◆東京都児童演劇祭優秀賞
- ◆東京都児童演劇祭奨励賞
- ◆読売児童演劇賞
- ◆日本児童演劇脚本賞
- ◆厚生省中央児童福祉審議会特別推薦
- ◆文化庁地方巡演・こども芸術劇場指定公演